

かとう や しき 加藤屋敷遺跡

遺跡番号	平成17年度登録
所在地	南陽市川樋字加藤屋敷
北緯・東経	38度09分24秒・140度19分30秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因	一般国道13号上山バイパス改築事業
調査面積	4,400㎡
現地調査	平成18年5月17日～11月24日
調査担当者	齊藤主税（調査主任）、佐藤 学
調査協力	置賜教育事務所、南陽市教育委員会
遺跡種別	集落跡
時代	縄文時代、古墳時代、平安時代、中世、近世
遺構	竪穴住居跡、井戸跡、溝跡、方形周溝状遺構、川跡、土坑
遺物	縄文土器、土師器、須恵器、木製品、石製品 (文化財認定箱数：140)



調査の概要

加藤屋敷遺跡は、JR中川駅から西へ約500mのところ、南陽市北東部の川樋地区に位置している。鷹戸山と岩部山に囲まれた緩やかな傾斜地で、標高は280m程である。現在は主に、水田・畑地・宅地・果樹園などになっている。

今回の調査は、一般国道13号上山バイパスの改築事業（中川工区）に伴う緊急発掘調査として行われた。平成17年度の山形県教育委員会による試掘調査で平安時代の土器や柱穴・溝跡などの遺構が検出され、本遺跡の確認・

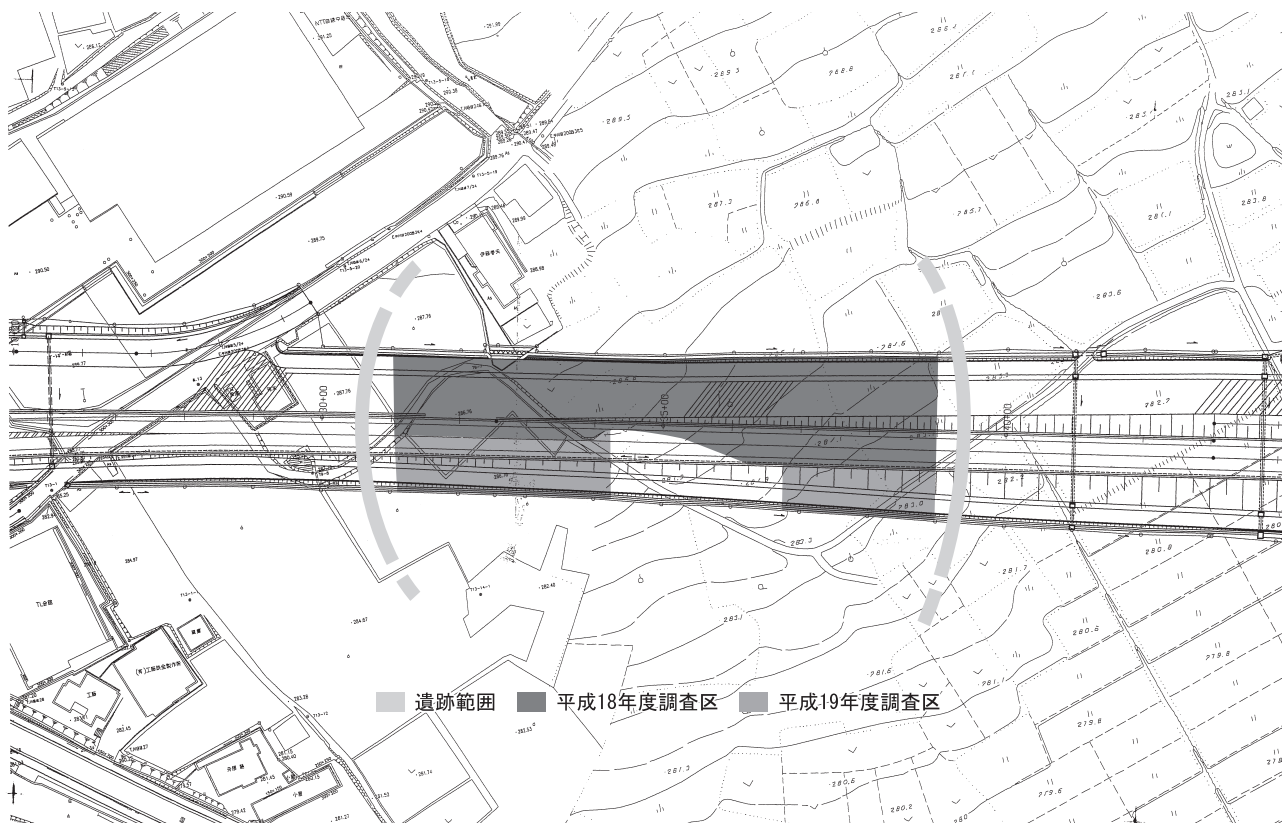
登録がなされた。今年度の発掘調査は、工事用道路部分を除く4,400㎡について行った。調査の便宜上、調査区を南側から順にA～Eの5区画に分け、①重機による表土除去②遺構検出③遺構精査・記録という工程で進めた。

遺構と遺物

検出された遺構は出土した遺物から、ほとんどが平安時代のもと考えられる。A区では井戸跡SE1や柱穴が検出されたが、住居跡は確認できなかった。SE1は素掘りの井戸である。

B区では方形周溝状遺構SD4が検出された。その形は弥生時代や古墳時代の方形周溝墓と全く同じである。しかしながら、出土した遺物は平安時代のもと思われる土師器であった。この遺構については今後、慎重な検討が必要である。また、溝跡SD2はL字状に検出されたが、東側の工事用道路下に続いている可能性が高い。

C・D区では竪穴住居跡が6棟検出された。大きさは一辺3m～4mの方形で、すべてに白い粘土で作られた据付のカマド跡が見つかった。また、どの住居跡にも炭や焼土が見られ、中でもD区のST20とSK19で多量の炭や焼土が確認された。この点から、今回検出された住居跡は火事に遭った可能性があると考えられる。その他にはC区で、合口甕棺と思われる土器埋設遺構1基と溝跡・



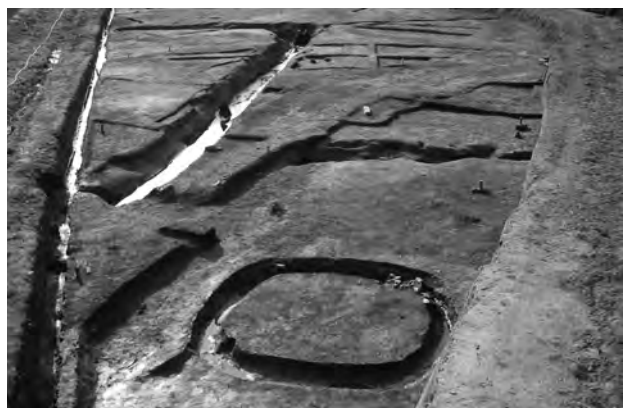
調査区概要図

杭列などが検出された。

E区では南西から北東に向かって幅4m～7m、深さ2mを超える川跡SG23が検出され、平安時代の遺物が多数出土した。川跡はD区西側に続いていたが、E区と比べ川幅が狭く遺物の出土量も少なかった。

遺物は、平安時代の土師器・須恵器が最も多く出土した。器種は、坏・甕・蓋・壺・土鍋などである。とくにC・D区の竪穴住居跡と遺物包含層、E区のSG23に遺物が集中していた。SG23からは完形の土師器・須恵器坏がまとまって出土し、「大」「主」「物」「王仁」などの文字が書かれた墨書土器も含まれていた。また、柄杓・皿・曲物・木槌などの木製品、当時の食料であるクルミやトチの実も多数出土した。この他、B区のSD2から古墳時代の勾玉、C区のSX16から平安時代のものと思われる木簡が出土した。D区のST20では炭化材下から木製の皿、ピットから土製の紡錘車出土している。

遺構外からは、多様な遺物が出土した。時代の古いものでは、縄文時代後期の土器や石器・石斧、縄文時代晩期の小型の壺形土器が出土した。また、砥石や古銭、中世・近世の陶磁器なども見つかっている。



B区完掘状況



B区SD4 方形周溝状遺構

ま と め

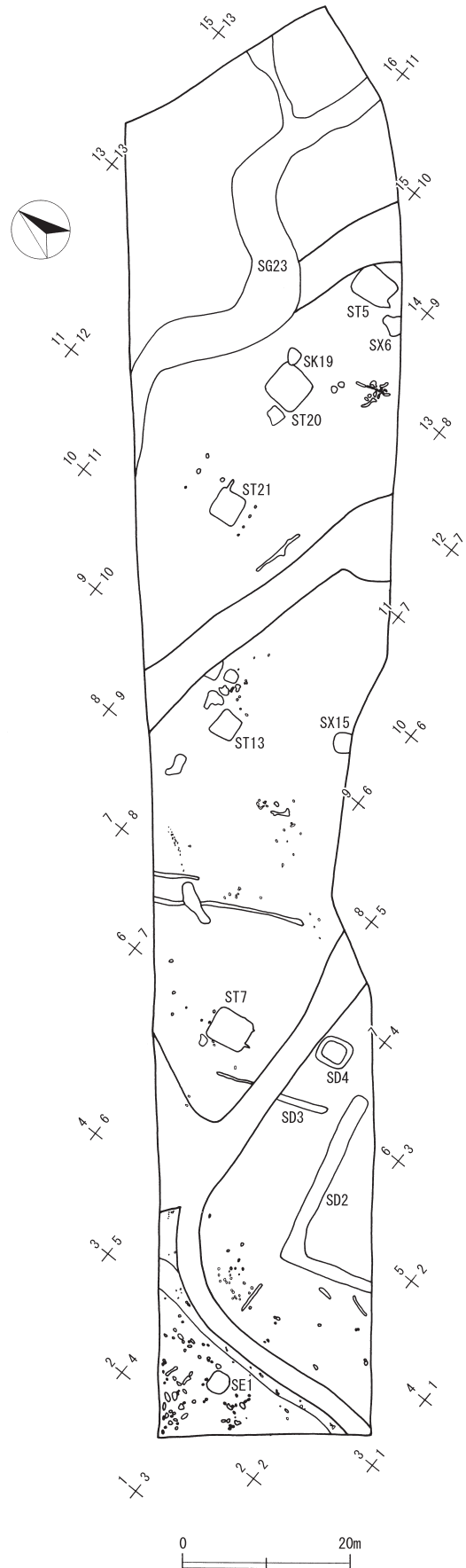
加藤屋敷遺跡は、平安時代の集落跡である。今回の調査で検出された竪穴住居跡は6棟であり、比較的まばらな集落の様子を窺い知ることができた。

一方でC・D区には、表土から竪穴住居跡などの遺構検出面までの間に、40cm～70cmの厚い遺物包含層が堆積していた。遺物包含層には、平安時代の土師器・須恵器の破片が多量に含まれていたが、それ以外に縄文土器・石器など様々な遺物も出土した。この調査区は西側に比べ東側が低い傾斜地で、降雨による遺構の浸水がしばしば見られた。恐らく平安時代も同様の地形で、降雨や周囲を流れる川の氾濫などがあった際、隣接する遺跡から土器などが土砂とともに流れ込み堆積したと考えられる。

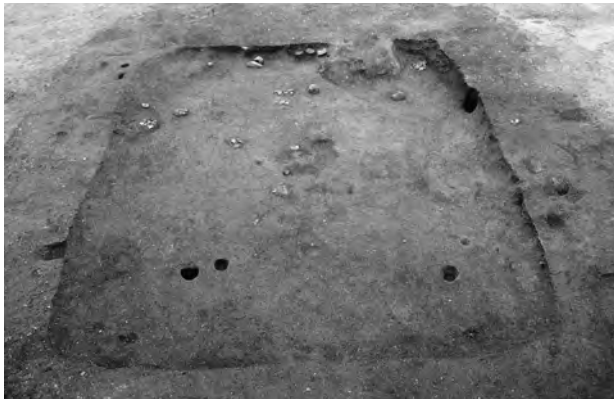
こうしたことから、集落跡の中心部は、調査区より西側の平坦な場所にあると推測される。そのあたりには、縄文時代晩期の集落跡と考えられている岩谷堂遺跡が広がっている。加藤屋敷遺跡・岩谷堂遺跡の一带は、縄文時代から古墳時代・中世・近世にわたる複合遺跡となる可能性がある。



D区完掘状況



遺構配置図



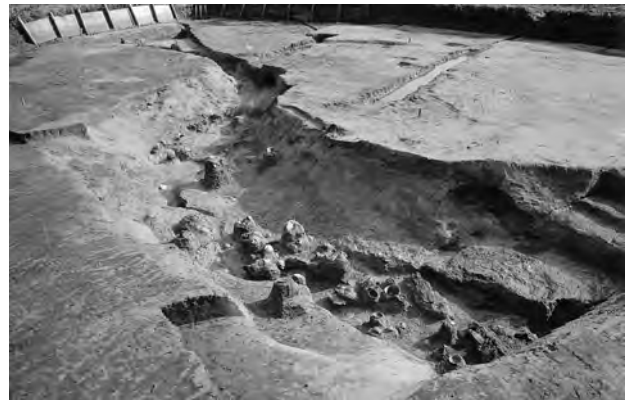
C区ST7 竖穴住居跡



D区SK19土坑・ST20竖穴住居跡



C区 木筒出土状況



E区SG23川跡 遺物出土状況



C区S M24合口壘棺



E区SG23川跡 木製皿(漆器)出土状況



C区ST14竖穴住居跡



E区SG23川跡 柄杓出土状況